

島根県原子力防災訓練での感染症流行下における避難手順の検討について

令和2年11月25日
島根県原子力安全対策課

感染症流行下での原子力災害の発生を想定し、令和2年度島根県原子力防災訓練において、以下のとおり避難手順等の検討を行った。

1. 避難退域時検査会場での健康確認等

(1) 日時

令和2年10月15日(木)

(2) 会場

中海ふれあい公園(安来市)

(3) 実施概要

避難退域時検査会場において、避難住民へ非接触型体温計を用いた検温や、感染症検査を想定した会場レイアウトを2パターン作成し、手順の検討を行った。



2. 一時集結所での感染症防止対策

(1) 日時

令和2年10月31日(土)

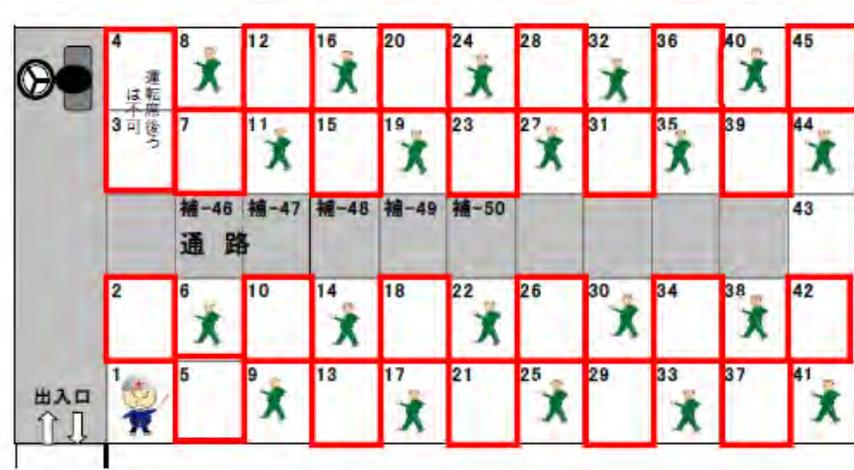
(2) 会場

松江市鹿島地区(上講武公会堂、古浦集会所、恵曇集会所)

(3) 実施概要

一時集結所へ参集した住民への検温などの健康確認や、バスへの乗車方法の検討を行った。また、模擬の感染疑い者を設定し、感染疑いのない者と車両を分ける手順も確認した。

【感染疑いのない者の避難車両配席イメージ】



鳥取県原子力防災訓練での感染症対策について

令和 2 年 1 1 月 2 5 日
鳥取県危機管理局原子力安全対策課

1. 訓練概要

今年度訓練は、コロナ禍のため練度の維持に必要となる訓練項目に絞って実施し、基本事項の徹底を図りつつ、あわせて原子力災害時の避難における感染症対策の検証を図った。

一時集結所や車両検査会場での検温、健康確認等の感染症対策や避難所レイアウトの検証等を行った。

2. 実施内容

感染症対策に係る訓練実施項目としては、主に以下のとおり。

(1) 自家用車による避難訓練実施

10月31日（土）に、本県では初めてとなる住民自家用車による避難訓練を実施し、当該対応に必要な要領の確認及び感染防止対策の検証を行った。

従来は、バスに住民が乗車して避難する形の訓練であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、バス内や一時集結所、避難退域時検査会場内での密接、密集等を避け、加えて国の示す感染症流行下での防護措置の考え方を踏まえた健康確認、安定ヨウ素剤緊急配布の手順を確認することを目的に、山陰道PA（道の駅「琴の浦」）においてドライブスルー方式での車両検査等を実施した。

(感染症流行下における避難方針)

屋内退避・避難の各段階で可能な限り感染防止対策を行うとともに、健康確認等により別々に避難する等してリスクを取り除く。



(2) 避難車両等への養生実施

自宅療養者（軽症者、感染の疑いのある者）が原子力災害時に避難する場合を想定し、10月30日（金）に避難車両感染症対策展示訓練を行い、自衛隊監修の下、車内養生をバス関係者、自治体職員等で行った。また、10月31日（土）の避難訓練に際して、当該車両を使用するとともに、自衛隊救急車や大型ヘリ（CH-47）についても車内・機内養生の上、訓練参加した。

【参考】大型バス1台の車内養生（自衛隊監修方式）に要する人員数・時間等
（人員数・時間目安）8名で6時間（当日は約20名で実施）
（資機材）養生シート約120㎡、養生テープ20巻、ポリ袋200枚
※資機材はストレッチャー車両1台の養生分も含む



(3) ドライブスルー方式による安定ヨウ素剤配布

避難車両の一部が、安定ヨウ素剤を未受領、未服用で避難中であるという想定で、国のガイドラインで示される「住民が避難車両から降車せずに受け取ることが可能な配布方法」として、車両検査会場（山陰道PA（道の駅「琴の浦」））にてドライブスルー方式の模擬配布を行った。

(4) 一時集結所における対策

米子市、境港市の一時集結所において、住民の検温や健康確認を行い、感染症流行下での対応を確認することができた。

(5) その他

① 感染症対策を踏まえた避難所等の設営

10月31日（土）に、感染症対策を踏まえた避難退域時検査会場（伯耆町B&G海洋センター）や避難所の設営（消毒・検温場所の設置、密を避けたレイアウト、換気方法の確認等）を行い、レイアウトや運営体制について検討を行った。



② 「とっとり新型コロナ対策安心登録システム」の活用

参加者が集結する会場では、本県の新型コロナ対策に係る情報提供サービスであるコロナ対策安心登録システム（会場単位でQRコードを発行し、来場者はスマートフォン等で読み取り登録。もし来場者で感染が判明した場合、登録者に通知される仕組み）を実感染防止対策の一つとして活用した。

3. まとめ

避難における感染防止対策については、これまで行ってきた原子力災害時の避難対策の延長線上で対応することが可能であることが確認できた。

また、3密防止のための出来る限りの接触を控えることを目的とした車両検査の避難経路上での先行的実施やドライブスルー方式が、避難の円滑化にもつながることが判明したため、今後、避難退域時検査の実施方法について、さらに検討を進めたい。

一方で、車両の養生など非常に手間と時間もかかることが判明したため、平素からの準備が必要である。